



学生スタッフによるレクリエーション



地元農家の方の畑でのフィールドワーク



小原日登美さんによるレスリングの指導



入学式の様子

# 子ども大学☆ふじみ

## 子どもスポーツ大学☆ふじみ

### 今年度も開校!!

問合せ／生涯学習課 ☎ 631

#### 子どもたちの学ぶ力をはぐくみます

今年度で第5期目となった子ども大学☆ふじみと第3期目となった子どもスポーツ大学☆ふじみの合同入学式が、6月11日に淑徳大学で行われました。子ども大学は約60人、子どもスポーツ大学は約30人の受講生が出席し、今年度は子ども大学開校5周年であることから、第1期卒業生の関ゆみんさんが今年度の受講生にエールを送りました。

子ども大学☆ふじみは、平成24年度に近隣大学や企業、市民団体などが主体となって実行委員会を立ち上げ、開校されました。地域資源を活用しながら、子どもの学ぶ力をはぐくむことを柱に、実践を中心としたカリキュラムが組まれています。運営にあたっては富士見市まちづくり寄附制度で寄せられた寄附金を活用しており、専門家の教えを受けることで、好奇心や探究心をはぐくみ、チャレンジしていく力を身に付けてほしいという願いから、さまざまな講義を企画しています。

入学式終了後、これから子ども大学と一緒に過ごす仲間たちとレクリエーションをしました。レクリエーションの進行は教師を目指す淑徳大学教育学部の学生、各講義の運営スタッフとしても動き、子どもたちの良きお兄さんお姉さん役を担

っています。

市内の異なる学校・学年の児童や、少歳の離れた大学生と友達になれる異年齢交流も子ども大学の魅力です。

#### 講義は体験型の学習

講義は体験を重視した学習に重きを置かれており、6月25日に行われた子ども大学の講義「富士見発☆とれたて野菜!」自然とうまくつきあう「農業」では、地元農家の方の畑をまわり、農作物の観察や、土と野菜の相性などを学びました。子どもスポーツ大学では、ロンドン五輪女子レスリング金メダリストの小原日登美さんや車椅子バスケットボールチーム「埼玉ライオンズ」など、トップアスリートの方々と直接触れ合い、指導を受けています。

今後も大学や企業、市民団体などと連携し、子どもたちの学ぶ力や可能性、さらには地域の教育力の向上を図っていきます。

次項では、今年度の入学式に出席した第1期卒業生の関さん、実行委員長の岩村さん、レスリング講師の小原さんから子ども大学と子どもスポーツ大学の魅力や意義を語っていただきました。

#### 子ども大学☆ふじみ

##### 第1期卒業生 関ゆみんさん

私が子ども大学で得たことが2つあります。

1つ目は「人前で話す自信」です。劇作家の平田オリザ先生が講師を務める「演劇に挑戦! あなたが主役!」という授業で、グループごとに劇をつくり、発表することになりました。人前で演技をするのは初めてでしたが、恥ずかしかったのですが、周りの人が笑顔で見てくれて、平田先生にもほめていただいたことで自信がついたのを覚えています。

2つ目は「ノートをとる力」です。講師の方の言葉の中で私が大事だと思ったことをノートにメモするようにしました。この習慣がついたことで高校受験の勉強にも役立ちました。

皆さんも自分なりに学び方を工夫して、子ども大学☆ふじみでたくさん学んでください。きっと自分の自信につながります。



#### 子ども大学☆ふじみ

##### 実行委員長 岩村 沢也さん

(淑徳大学経営学部教授)

いろいろな事を、いろいろな施設で、いろいろな人と一緒に体験してもらうことがこの取組みの目的のひとつです。何か一つに特化するわけではなく、むしろ普段の学校生活では得られない経験や知識、可能性などを小学生のうちに触れてもらいたいと考えています。

子ども大学に関わっている方々と接することで、市やその近隣にはいろいろな施設や企業・団体があり、そこに携わる人々たちがどんなことをしているかを肌で感じ、その中から自分のやりたいことを見つけ、後に活かしてほしいです。

また、受講生は別々の小学校から来ているので、初めての人と交わる機会を大切にしています。

#### 子どもスポーツ大学☆ふじみ

##### 講師 小原日登美さん

(ロンドン五輪女子レスリング金メダリスト・富士見市PR大使)

講義では、子どもたちが楽しく講義を受け、怪我がなく終えられることを第一に考えています。子どもたちはみんな初心者なので、まずはレスリングとはどのようなものかを知り、その魅力を感じてもらいたいと思っています。

富士見市の子たちはみんな元気いっぱい。レスリングの授業は身体を使えばなれませんが、最後までみんな元気よく取り組むし、休憩時間でも身体を動かしています。そんなようすを見ると講師としても楽しく、とてもやりがいを感じます。

最近ではゲームで遊ぶなど、子どもが身体を動かす機会が減っているように思います。子どもたちに身体を動かすことの楽しさや達成感を感じ、目標に向かって一生懸命になれるきっかけになったらうれしいです。



立教大学馬術部による馬術の指導



車椅子バスケットボールの試合に挑戦